

船舶事故調査報告書

平成27年2月19日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	転覆
発生日時	平成26年6月7日（土） 12時30分ごろ
発生場所	三重県志摩市大王島北西方沖 志摩市所在の波切港東防波堤灯台から真方位125°55.8m付近 （概位 北緯34°16.9′ 東経136°54.5′）
事故調査の経過	平成26年6月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	瀬渡船 福有丸、1.6トン ME3-53565（漁船登録番号）、個人所有 7.96m(Lr)×2.14m×0.83m、FRP ディーゼル機関、49.3kW、昭和59年9月 第243-37889号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 74歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年5月21日 免許証交付日 平成24年10月1日 （平成30年5月24日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	主機関に濡損、舷縁に破損等
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成26年6月7日12時00分ごろ志摩市波切漁港を出港し、午前中2回に分けて瀬渡しした釣り客3人を乗せて帰るため、大王埼北東方沖の大王島に向かった。 本船は、船長が、大王島北西岸の岩場に船首を着けて釣り客3人を乗せた後、左舵を取って機関を半速力後進にかけ、船首が南方を向いたところ、12時30分ごろ東方からの磯波を左舷正横に受け、右舷側に転覆した。 船長は、閉じ込められた船内から自力で脱出し、投げ出されて海面に浮いていた釣り客3人と共に浮遊物につかまっていたところ、13時20分ごろ、通り掛かった漁船に救助され、全員が波切漁港で救急車に引き継がれて病院に搬送され、釣り客2人が、経過観察のために入院した。

	<p>本船は、漁船によって波切漁港にえい航されて陸揚げされたが、損傷が激しく廃船処分とされた。 (付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の末期、有義波高 約1.58m、最高波 約2.26m、波向 東（三重県尾鷲沖のGPS波浪計のデータ）</p>
その他の事項	<p>本船は、旅客定員が7人の船内外機を装備した和船型の小型兼用船で、本事故当時の喫水が船首約25cm 船尾約40cmであった。</p> <p>船長は、本船を使用して一本釣り漁及びえび刺し網漁を行っていたほか、三重県に遊漁船業者として登録していたが、遊漁船としての営業は行わず、約40年前から瀬渡し業を行っていた。</p> <p>船長は、天気予報で波高が2mを超えるとの予報を聞いたときは、瀬渡しを行わないことにしていた。</p> <p>船長は、午前中に釣り客を大王島に瀬渡ししたとき及び午後に乗せて帰るために接近したとき、付近に磯波を認めず、本事故当時も連続した磯波を認めなかった。</p> <p>船長及び釣り客は、全員が救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、大王島南側の別の場所でも瀬渡しをすることがあった。</p> <p>本事故当時、志摩市には気象の注意報及び警報は発表されていなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	なし なし あり <p>本船は、大王島北西岸で釣り客を乗せた後、岩場を離れ、左舵を取って後進中、船首が南方を向いた際、東方からの磯波を左舷正横に受けたことから、右舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、大王島北西岸で釣り客を乗せた後、岩場を離れ、左舵を取って後進中、船首が南方を向いた際、東方からの磯波を左舷正横に受けたため、右舷側に傾斜して転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外洋に面した岩場で釣り客の瀬渡しを行う場合は、岩場に接近する前に磯波の発生状況を十分に監視すること。

付図1 事故発生経過概略図

